

「日本生物教育学会第 102 回 全国大会」参加報告

1 月 6 日から 8 日にかけて熊本大学で開催された、日本生物教育学会第 102 回全国大会に参加してきました。生物教育の理論と実践について研究し、生物教育の向上と発展をはかることを目的とした口頭発表やシンポジウム、ワークショップなどが開かれるなか、高校生ポスター発表という形で研究成果を発表に行ってきました。生物教育について、午前の講義で得た知見、午後の発表の様子などについて紹介します。



生物教育学会に参加して

午前中は、口頭で教育展開についての研究発表が行われました。私は特にメダカに関する教材研究の発表に興味がありました。小学 5 年生の理科の授業で、メダカを飼育しながら繁殖行動や受精卵からの発生の様子を観察するものです。従来の手順は親のメダカに卵を産ませるために必要な準備をする所から始めますが、産卵が始まらないこともあるためスムーズに授業が進まないということが課題でした。ある発表では、受精卵の観察から授業を始めその後親のメダカの観察をすることで、効率よく授業を進めるという新しい方法を提示していました。これまでも様々な大会に参加し、発表を聞くことは何度もありましたが、話が難しくよく理解できないまま終わってしまうことがありました。しかし今回の教育研究という内容は、生徒として自分が経験したことについて研究されているので内容を深く理解でき、発表する際の工夫などについても気づくことができ、よい刺激となりました。

午後は私たちの研究成果を発表しました。たくさんの方に興味を持っていただき、活発な意見交換を行うことができました。そのなかで、様々な指摘を受け、まだまだ改善の余地があるということを痛感しました。特にデータの少なさやまとめ方についての指摘が多かったです。次回の発表までに修正点を見直し、さらなる調査が必要な点については来年度以降のテーマとして研究していきたいと思います。

他の高校の発表を聞くことはできませんでしたが、どのポスターも内容が非常に深く作られており、自分たちの研究に生かせるようなところもたくさん見つけられたので、これを今後の研究発表につなげ、よりレベルの高いものにしていきたいです。

口頭発表とは別のブースで行われていた企業展示について紹介します。私が注目したのは「教育環境の変化」ということで、教科書の完全デジタル化についてです。今では様々な教科で取り入れられている技術ですが、理科において特にこの技術をもちいた授業が推奨されてきています。その理由は、今まで図示のみだった実験の手順・生き物の様子などがすべて動画で視聴することができ、分かりやすくなるとともに、関心を持って授業に臨むことができるようになるからです。これを取り入れている自治体も多く、今後さらに注目が高まっていくものと考えられます。

私たちの発表には、先生や教授のみでなく生徒も見られました。同じ生物という分野で研究をする同志として、客観的な立場からたくさんの意見をいただきました。斬新な着眼点からの意見に、自分たちの研究に足りていないのはどこかというのを実感しました。高校生 3 年間という限られた時間の中で、自分たちの研究を確立させられるよう、これからも努力を続けていきたいです。

